

## 第2回もんじゅ廃止措置に係る連絡協議会 議事概要

日時：平成30年6月4日(月) 18:00～18:30

場所：文部科学省 18階 研究開発局第1会議室

出席者：

佐伯 浩治	文部科学省研究開発局長
小澤 典明	経済産業省資源エネルギー庁資源エネルギー政策統括調整官
藤田 穰	福井県副知事
片山 富士夫	敦賀市副市長 ※代理出席

議題：

- (1) 「もんじゅ」の安全、着実かつ計画的な廃止措置の推進について
- (2) 政府における現地の廃止措置体制について

参加者の主な発言：

(原子力機構に対する指導・監督の徹底について)

### 【藤田副知事】

- ・7月には炉外燃料貯蔵槽（ナトリウムプール）から燃料池（水プール）への燃料体の移し替えが始まるとのこと、ナトリウムの洗浄など経験の少ない作業となるが、燃料の取扱いについては平成22年に炉内中継装置の落下事故があり、また今月も規制委員会から「もんじゅ」の保全計画の策定遅れが指摘されるなど、県民には原子力機構が安全に廃止措置を実施できるのかという不安がある。
- ・今回の廃止措置作業にあたり電力・メーカー等から外部人材を招き体制を強化したということだが、安全な作業実績を積み重ねることが県民の信頼を取り戻すための第一歩であるということを経験に銘じる必要がある。関係者一人ひとりが安全最優先の意識を持って、スケジュールありきではなく確実に作業を行っていくことが重要。
- ・政府においてははいよいよ現地で始まる廃止措置作業が安全・着実に実施されるよう、評価専門家会合の意見にしっかりと対応するとともに、廃止措置を規制・監視する原子力規制委員会と連携し、現場の体制を一層強化して原子力機構に対する指導・監督を徹底していただきたい。

### 【片山副市長】

- ・燃料体取出し作業については現場での最初の本格的な廃止措置作業であり、外部支援による体制強化やチーム員の教育訓練、対応手順の整備など、作業の実施に向けた準備を着実に進められており、連絡会議でも逐次状況報告をいただいているため現地対策チームを中心に準備状況を確認し、指導いただいていることは認識。
- ・一方で燃料池までの輸送実績はこれまでに2体であり、十分に経験がある作業ではないと思われるため、作業に臨むにあたり慎重の上にも慎重を期していただく必要がある。7月の作業開始までにまだ時間があるため、今一度事前にやるべきこと、確認しなければなら

ないことをしっかりと見直し、念には念を入れて万全の準備を行うようしっかりと指導いただきたい。

- ・体制に関しては、4月から実証本部が発足し69名体制になる等強化が図られているが、組織を作っただけではなく、統括という役割を果たしていただく必要がある。準備期間も含めて現場の業務ということが非常に多くなるため、現場の職員に過度の負担がかかることのないようにしていただく必要がある。熟練した経験者に業務が集中することのないよう、しっかりとチームで対応できるような体制としていただきたい。
- ・本部と現場である「もんじゅ」が乖離することのないよう連携を密にし、現場の状況を確実に把握していただきながら本部としての役割を的確に果たしていただきたい。
- ・「もんじゅ」において昨年9月頃からヒューマンエラーや事前の検討不足によるトラブルが発生したことは非常に遺憾。前回の連絡協議会の場においても、市長からヒューマンエラー防止対策を求めている。原子力機構のみならず、現場作業にかかわる協力会社の作業員にも対策の徹底と意識の浸透を展開していただくよう文部科学省としてしっかりと指導をお願いしたい。

#### 【佐伯局長】

- ・原子力機構が行う今後の廃止措置の作業についてはスケジュールにとらわれず安全を最優先に着実に作業を行うことが重要。またヒューマンエラー防止の取組については、現地対策チームから原子力機構に対し「作業安全の確保及び作業管理不備の防止に係る取組の実施を徹底すること」を指示しており、引き続き取組の状況を現地対策チーム会合等において確認する等所管省庁として原子力機構を指導・監督し、地元への信頼回復に努める。また、原子力機構は、保安検査等において原子力規制委員会より指導を受けており、そこでの指摘を踏まえた廃止措置の作業が行われるよう併せて指導・監督していく。
- ・評価専門家会合に対しては作業において想定されるリスクとその対策の妥当性などについての意見、助言を原子力機構の取組の進捗に応じて適宜求めており、原子力機構において頂いた意見や助言をもとに、廃止措置の作業を安全、着実かつ計画的に進めていけるよう指導・監督していく。

(国や県との連絡体制の強化について)

【藤田副知事】県民の信頼を得ていくためには廃止措置作業の進捗状況や機器の保守・点検の状況などあらゆる情報をオープンにしていくことが重要。現場の些細な事柄でも現地対策チーム等を通じ速やかに県や敦賀市に連絡するなど、政府が責任を持って地元 to 正確な情報を伝えていただきたい。

【片山副市長】文部科学省の現地体制についても4月に1名増員して強化したということであるが、単に人を増やしたということではなく、日頃の作業に対して現地でしっかりと監視、指導をしていただくようお願いする。

【佐伯局長】今後の廃止措置の進捗状況については引き続き本現地対策チームが原子力機構より取組状況について逐一報告を受け、連絡会議等を通じて御説明していく。また、必要に応じて国及び原子力機構から地元住民の方々にもご説明する。

【小澤統括調整官】現地職員の体制強化については、廃止措置の進捗に応じて、文科省ともしっかり連携しながら検討する。

(使用済燃料等の県外搬出の調査結果の提示について)

【藤田副知事】昨年 11 月の「もんじゅ関連協議会」において、使用済燃料およびナトリウムの県外搬出に向け年末には使用済燃料の再処理可能な施設やナトリウムの再利用の方法等について地元の説明することとなっており、この連絡協議会の場で調査検討結果を提示いただきたい。

【片山副市長】本日は進捗状況の報告はなかったが、使用済燃料及びナトリウムの搬出につきましては本年中に技術的課題を抽出し、平成 31 年以降具体的な検討、計画の策定を進めていくという約束のため、スケジュール感を持ち、具体的に進捗が見える形で検討を進めていただきたい。

【佐伯局長】昨年 11 月の「もんじゅ関連協議会」において、使用済燃料及びナトリウムの処理処分の方策や搬出までに解決すべき技術課題については今年末を目途に検討を進める旨を回答したところ。現在、文部科学省及び原子力機構において検討を進めており、今回の副知事、副市長のご指摘を踏まえ対応していく。

(7月以降の燃料移し替えについて)

【藤田副知事】「もんじゅ」の現場では設備を維持するための点検を中心に行ってきたが、いよいよ廃止措置が本格化し、7月から燃料の移し替えなどの具体的な作業が始まるところ、政府として原子力機構をしっかり指導・監督いただくことにより、廃止措置作業の安全を確保し、県民の安全安心につなげていただきたい。

【片山副市長】7月から本格的な作業が始まるということ、安全に対して万全の状態で作業に着手できるよう国としてしっかりと作業の進捗を確認していただきたい。今後も「もんじゅ」の廃止措置の取組につき、連絡協議会などを通じて適宜ご報告をいただくとともに、市民が不安にならないよう、廃止措置の状況について時機をとらえ丁寧に説明していただくようお願いする。

【佐伯局長】本日いただいたご意見については現地対策チーム会合等の場を活用し引き続き原子力機構とともに検討を行い、進捗に応じて地元にお示ししていく。今後も原子力機構が、「もんじゅ」の廃止措置を安全着実かつ計画的に進められるよう、政府一体となってしっかりと取り組んでいくとともに、地元へ丁寧に説明していく。

以上